



発行所 香川県小豆農業改良普及センター

〒761-4301 小豆郡小豆島町池田2519-2 TEL:0879-75-0145 FAX:0879-75-2477
URL <https://www.pref.kagawa.lg.jp/shozu/nogyo/> E-mail shozunokai@pref.kagawa.lg.jp

シリーズ

小豆島の
多様な担い手

小豆島町地域おこし協力隊の活動により 美しい棚田を後世に！

～ 小豆島町地域おこし協力隊 小木曾 裕紀さん(写真左) 長棟 快さん(写真右) ～



小豆島町中山地区の棚田「中山千枚田」は、地域住民の高齢化などにより耕作放棄地が増え、地元は将来への危機感を抱いていました。このような中、地域文化の源である「千枚田」を後世に伝えようと、若手の地域おこし協力隊員2人が、地元の人たちや「小豆島町中山棚田協議会」の方に支えられながら、日々奮闘しています。

小木曾裕紀さんは、棚田地域の活性化という仕事に興味を持ち、令和3年4月に中山地区に家族と移住されました。移住先を選ぶ際、小豆島は豊かな自然があり、買い物、学校、病院等の生活の利便も良く、子育て環境が優れていることが決め手となりました。

長棟快さんは、海外留学後、現地で就職し20代を海外で生活されましたが、昔から夢見ていた農業を始めるため、全国の様々な場所を巡る中で小豆島と出会い、令和4年4月に移住されました。現在、お二人は、地元若手農家と定期的に地域活性化に向けての意見交換会を行うなど、地域と一体となって課題解決に取り組んでいます。

取り組みとしては、地元農家や香川大学の学生と協力し、地元小学生向けの「田植え体験&泥んこ遊び」や稲刈り体験、ふるさと納税返礼品の棚田米パッケージ作成、担い手育成プログラム「棚田アカデミー」などの活動を積極的に行っています。また、稲作のほか「小豆」など新たな作物の作付けにより、耕作放棄地の解消に努めています。さらには、棚田米のブランド化に向けて、特別栽培米への挑戦を計画するなど、棚田の魅力をより一層引き出そうとしているところです。

今後も、中山地区の活性化を目指し、小木曾さんは「家族で食べるお米作りを通じて農業に関わり続けたい」、長棟さんは「小豆島で新規就農し、島の次世代の農業を担っていきたい」と語られました。

これからも、普及センターでは、小豆島町役場などと連携し、お二人の取り組みにより「中山千枚田」が全国に誇れる棚田として、後世に引き継がれることを期待しています。

ビワキジラミによる「すす病」に注意

～ 対策は摘果作業後の防除!! ～

● ビワキジラミとは

アブラムシなどと同じカメムシ目の微小昆虫で、ビワのみを加害します。成虫(写真1)はセミのような外観をしています。全長は3mm程度しかありません。幼虫(写真2)は扁平で自由に歩行することができますが、通常は枝葉の基部等の隙間に潜んでいます。



写真1 成虫

● 被害の様子

ビワキジラミは成虫・幼虫ともに樹液を吸い、これを体内で濃縮して甘露として排泄します。甘露は枝葉や果実に多量に付着するとベタベタして、これにカビが繁殖し、黒く汚れた「すす病」(写真3)になります。黒い果実は商品価値も下がり、被害が激しい場合は、果実が肥大できずに腐敗・落果することもあり、深刻な被害となります。



写真3 すず病(排泄物)による果実被害



写真2 幼虫

● 対策

薬剤散布

袋掛け前の防除がポイントです。**薬剤散布の際は、余分な花カスを取り除き、仕上げ摘果を行った後に果房部分を中心に、たっぷりと丁寧に散布するように努めましょう。**また散布後は薬液が乾いたら速やかに袋掛けする必要があります。



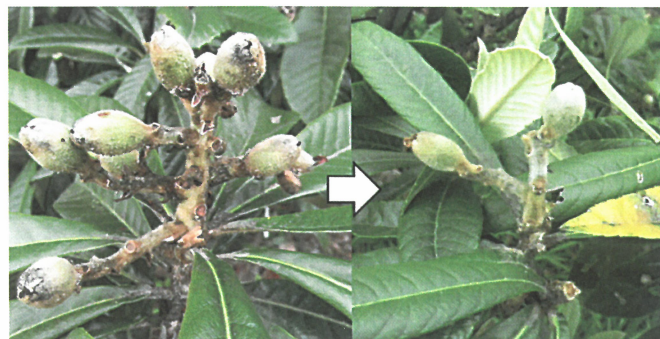
今後の防除事例

時期	薬剤名等	備考
袋掛け直前 (3月)	スターフル顆粒水溶剤 2,000倍 (収穫前日まで/2回)	‘まくぴか’などの展着剤を必ず加用する。

県監修防除暦より ※登録内容は変更することがあります。(2023年1月現在)

薬剤効果を高めるためのポイント

「薬剤散布後に摘果・袋掛け」を行う場合は、果房に花カス等が多く、薬液が虫まで届かず防除効果が低くなります。そこで、**「摘果作業後に薬剤散布し、袋掛け」**を行う体系に変更しましょう。一見すると「労働時間が長くなる」と思われますが、最近の試験で、適切に管理された樹では、労働時間の差はほとんどないことが分かりました。



摘果前(左)

摘果後
(花カスも除去する)



令和4年度小豆島らしい地域活性化研修会を開催

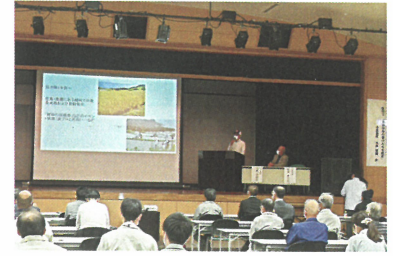
令和4年11月21日、小豆島町西村のサン・オリーブにおいて、「小豆島らしい地域活性化研修会」を開催しました。この研修会は、人口減少と高齢化が進む小豆島において、今後活力低下が懸念される農業・農村の維持発展のために、「島外からの人材の確保・育成」について考えるために開催したものです。

まず、奈良県から地域おこし協力隊として赴任し、任務終了後、豊島で新規就農した新屋貴之氏(イチゴ栽培)と、小豆島町農業委員会会長を経験され、地元で移住者の就農支援をされている九野賢輔氏の事例発表がありました。

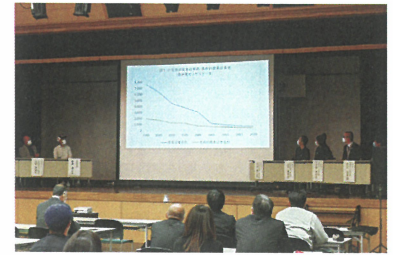
続いて、香川大学副学長の原直行氏をコーディネーターに、先の2人とともに管内の女性農業者と広島県出身の新規就農者(野菜、果樹栽培)及び両町で農作業に従事している地域おこし協力隊の計6名がパネラーとなり、パネルディスカッションを行いました。

移住者の意見として共通していたのは、「地元の方へのあいさつを心掛けていた」ということでした。また、受け入れ農家の意見として、移住者に対し、「あいさつはしてほしい」という希望とともに、就農については「無理をしない」というアドバイスがありました。また、関係機関に対し、「農地の貸借や施設のリースなど初期投資に対する配慮が必要である」、との意見がありました。

最後に原副学長より、「移住者に地域での役割を担ってもらうことが、その地域の活性化に結び付く」という提言をいただきました。



事例発表する新屋氏



パネルディスカッション



新規就農者の農産物加工品

地域特産のキクを使った花育活動で小学生との交流を図る！

女性農業者グループ「sweet小豆島」



令和4年12月26日、小豆島町において、女性農業者グループ「sweet小豆島」が中心となり、フラワーアレンジメント教室を開催し、管内の小学生親子ら15名が、正月飾りづくりを体験しました。

sweet小豆島は令和4年9月に小豆島町の女性農業者4名で設立されたグループで、現在は新たに土庄町の農業者2名が加わり、活動範囲が管内全域に広がっています。地産地消の推進を活動の柱に位置付けていることから、若い世代を対象とした「地域の花」に着目したワークショップを、結成後初めて開催したものです。

「ディスバッドマム(一輪菊)を使ったお正月飾りを作ってみよう!」をテーマに、ピンク色のそろいの法被に身を包んだ会員が作業を熱心にサポートし、参加者は想像力を駆使して、個性あふれる唯一無二の作品を作り上げました。この日はアレンジメント以外に、小豆島でのキク栽培の歴史やキクの品種の変遷についての講話や、小豆島特産のイチゴの試食があり、参加者はキクとイチゴなど、小豆島特産の農産物を楽しく学び、生産者とふれあう1日となりました。



また、sweet小豆島の会員にとっても、交流活動への手ごたえを感じるとともに、会員の相互理解を深める契機となったようです。

受賞おめでとうございます



令和4年度（第61回）農林水産祭むらづくり部門

農林水産大臣賞 小豆島町中山棚田協議会（会長 九野 賢輔氏）

当協議会は、「日本の棚田百選」にも選定されている千枚田や農村歌舞伎など、中山地域の美しい農村風景や貴重な伝統文化を守り継承するため、平成25年に設立されました。

今回、地域が一丸となった、水稻の鳥獣害対策や狭小な水田に適した小型機械の導入など生産面での取組み、また、農村歌舞伎や虫送りなど伝統文化の継承、さらには、地域おこし協力隊の受け入れや棚田アカデミーの立ち上げなど、持続可能な農村地域づくりが高く評価されました。



前列中央が九野会長



令和4年産小豆地域水稻食味コンクール表彰

1月19日に開催した「令和4年度小豆地域良質米生産推進研修会」において、「令和4年産小豆地域水稻食味コンクール」の表彰を行い、食味上位者に対し、小豆農業改良普及協議会長より最優秀賞2名、小豆普及センター所長及びJA小豆地区営農センター長より優秀賞各1名に賞状が授与されました。

受賞者からは、「食味向上には基本技術の励行が重要であり、生産者の皆さんと情報交換し、島のお米をもっと美味しくしていきたい」と食味向上に向けた自身の取り組みの紹介がありました。

たくさんの出品ありがとうございました。



受賞区分	受賞者氏名	住所
普及協議会長賞（コシヒカリ）	出水 利明 氏	土庄町
普及協議会長賞（ヒノヒカリ）	森上 隆 氏	小豆島町
普及センター所長賞（コシヒカリ）	高橋 武司 氏	小豆島町
JA営農センター長賞（コシヒカリ）	中野 武 氏	小豆島町

農作業安全

これからは、田植えに向けてトラクターや田植え機など農業機械を使用することが多くなります。あらためて農作業安全の再確認を行いましょ。

- 農作業安全に向けた「声かけ」を実施しましょう。
- 農業機械の日常的・定期的な整備・点検を行いましょ。
- コンバインなどに巻き込まれないよう、安全な服装で作業を行いましょ。
- シートベルトとヘルメットを着用しましょ。

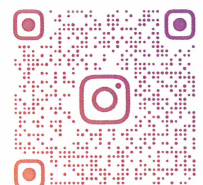
～春でも熱中症対策は忘れずに～
こまめな水分補給と十分な休憩を！



お知らせ

香川県農業経営課のSNSが開設

関係する団体の活動や農業の魅力を発信しています。参考となる情報が随時発信される予定です。



KAGAWA_NOUKEIINFO